

# 四季・間・色彩

伝えたい、日本の「美」。

北斎が求めつけた日本の「美」。  
季節のうつろいが創る、  
極めて豊かな日本の色彩。

春に、あたたかな薄花桜色……  
夏に、みずみずしい萌木色……  
秋に、あざやかに輝く唐紅色……  
そして冬は、しずかな雪景色へと変化する。

ここには、「時」とともに変化する「色」がある。

## 環境・象徴性

南側(総武線側)外壁面は、北斎の描いた「波」をモチーフとするダイナミックな壁面緑化を施し、この美術館の「顔」を創るとともに、世界に発信する環境シンボルとしての役割も持たせることを提案します。

## 開放性

南北軸(緑町公園～総武線)に、ミュージアムショップ、日本庭園(時の庭)、喫茶を配し、アイレベルにおける眺望を確保するとともに、来館者をもとより近隣住民の方々も気軽に利用できる、地域に開かれた美術館を提案します。

## 連続性

北側(緑町公園側)は、圧迫感を和らげるよう外壁の一部(展示室ホワイエ部分)を後退させ、開口部を設けます。公園側からも美術館側からも、お互いに人の動きを感じることができる一体感のある美術館を提案します。



徹底した省エネルギー・省資源のため、LCCO<sub>2</sub>削減及び雨水利用などの環境配慮設計を行い、建設時・運用時・廃棄時のライフサイクル全般にわたりCO<sub>2</sub>の排出量を抑えた、人と地域と地球環境にやさしい計画とします。

4階は、「時の庭」を取り巻く回廊に、図書室、館長室、学芸員室、ボランティア室等を配し、明るく機能的な空間とします。

多くの人が集まる多目的ホールと講座室は、地下1階に集約し、管理・運営の容易な配置とします。

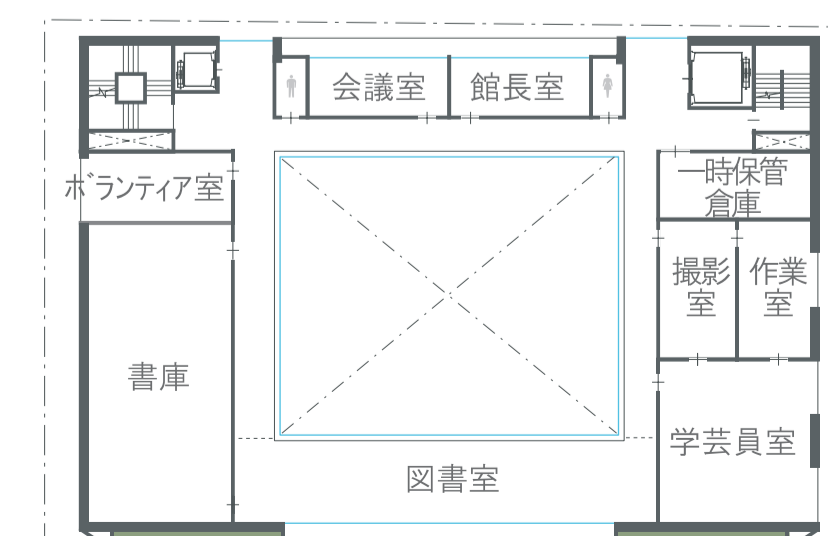
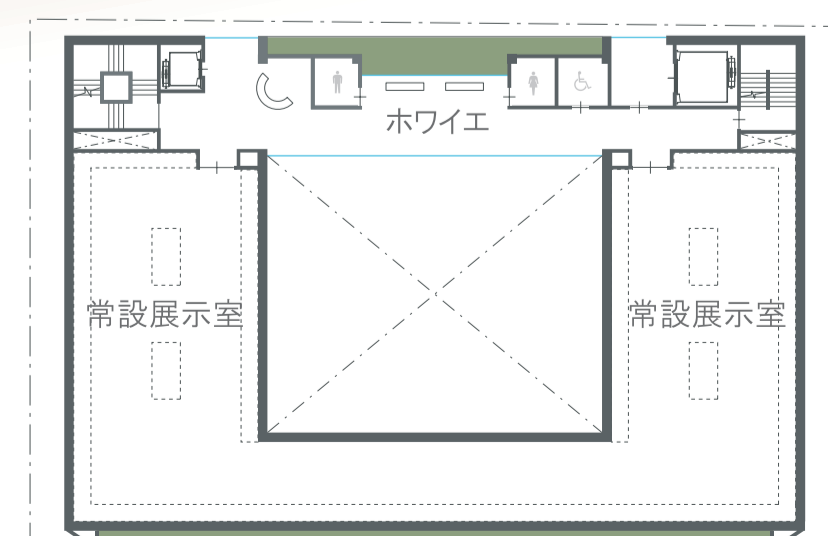
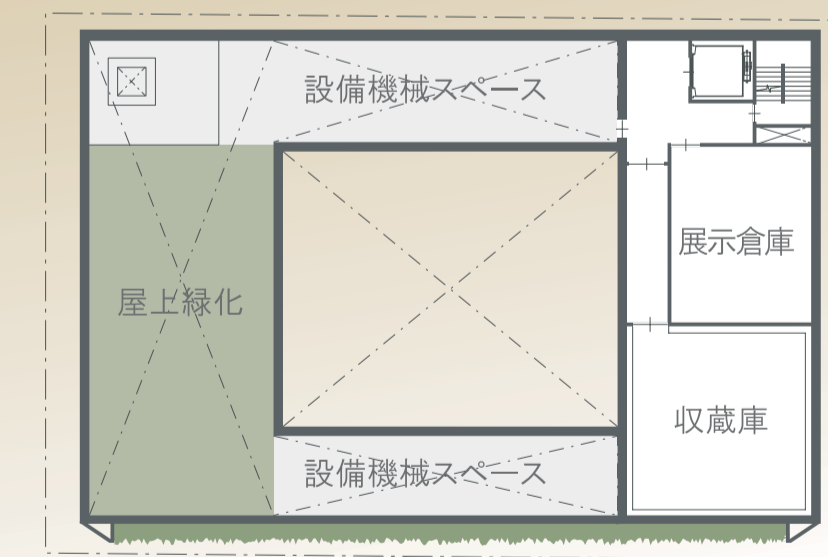
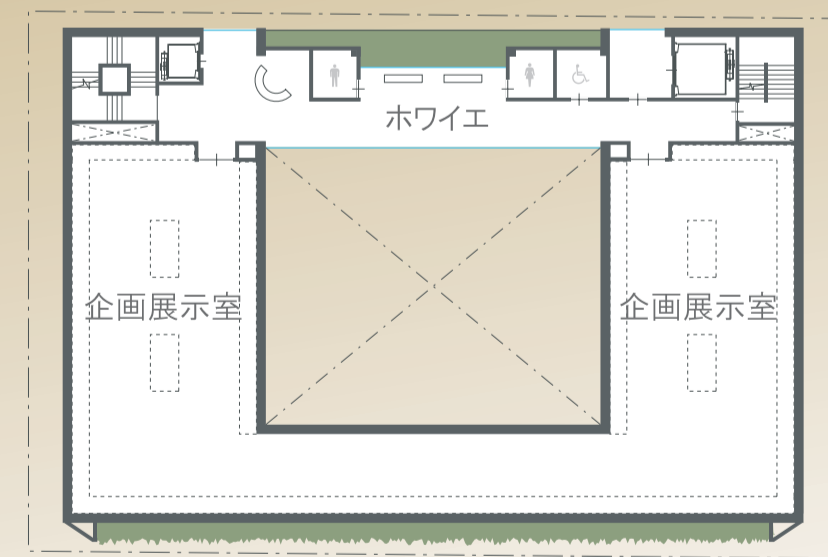
「時」の流れとともに変化・成長する、日本庭園「時の庭」を提案します。

収蔵庫は独立した5階に設け、セキュリティー及び、防災の上でも他の空間とは区画し、貴重な収蔵品を安全に守る配置とします。

2階、3階、常設・企画展示室とも、回遊性のあるコの字配置とし、ゆったりと鑑賞できる計画とします。特に、南側展示部は30mを超える壁面を確保し、様々な趣向を凝らした展示が可能な空間とします。

エントランスは敷地西側に配し、「時の庭」が四季折々の美しい景色とともに迎えてくれる、季節・色彩を感じる空間とします。

シンプルな意匠と架構計画により、コストの抑制を目指します。耐震性や防火性などを備えた耐久性の高い100年建築を目指した長寿命設計とします。また、時代の変化に追従する柔軟な空間づくりをします。



1F

3F

5F

B1F

2F

4F